

ひとなる

発行：白川町教育委員会
—「白川を愛し、たくましく心の
あったかい子を育む美濃白川」—

令和8年度 スタート



4月6日（月）に町内保育園で入園式が、4月7日（火）には小学校と中学校で入学式（佐見小学校は新1年生がいないので、進級式を実施）が行われました。町内では、4月から保育園に61人（保育園は入学年等が違うため在籍児数）が在籍しています。小学校に23人、中学校に21人が入学しました。園児・児童・生徒は、新しい学年で、それぞれの目標をもって頑張りました。町内の園や学校では、150名ほどの教職員が、子どもたちの成長を支えています。「白川を愛し、たくましく心のあったかい子」を育てるために、これからも地域の皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

「ひとなる」とは・・・

白川町教育委員会から毎月発行されてきたおたよりのタイトルが「ひとなる」ですが、あらためてその意味やこのタイトルに込められた願いを確認させていただきます。

「ひとなる」という言葉は、白川町はもとより、岐阜県内の飛騨地区や東濃地区などで使われてきた方言であると聞いています。「人になる（人として成長する）」という意味が込められており、子どもたちが白川町の豊かな自然や地域の人々との関わりの中で、心豊かに、しっかりと成長していくことを願って使われている言葉です。

令和8年度もこの願いを引き継ぎ、白川町の教育にかかわる話題などを掲載して、毎月発行していきます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

「ウェルビーイング」について

文部科学省が示している教育振興基本計画（第4期）では、子どもも大人も“ウェルビーイングを高めながら学び続ける社会”をつくる大きな柱として掲げられています。

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義といった“持続的な幸福”を含む概念です。さらに、個人だけでなく、周囲の場や地域、社会全体が豊かさや幸せを感じられる状態も含む、包括的な考え方です。

世界的にも、GDPのような経済的指標だけではなく、精神的な豊かさや健康、生きがいを重視する流れが強まっています。OECDの「Learning Compass 2030」では、個人と社会のウェルビーイングが“私たちが望む未来”であり、共通の目的地とされています。

日本では、

- 自己肯定感や自己実現といった**獲得的ウェルビーイング**
- 人とのつながり、利他性、社会貢献意識といった**協調的ウェルビーイング**

この両方のバランスを大切にする「調和と協調」が重視されています。

先日の研修で、初任者の先生や4～6年目の先生方と話す中で、「**教師自身が健康であること、心に余裕があることが、子どもへの関わりを良くし、結果として良い教育につながる**」という共通の気づきが生まれました。

この実感は、まさに教育振興計画が示すウェルビーイングの方向性と重なります。**教師自身の心身が整い、周囲と良い関係を築きながら、学校全体として持続的に良い状態をつくっていくこと。**その積み重ねが、子どもたちの学びや学校の雰囲気をもっと良いものにしていきます。

5月の子どもたちの主な行事

5月 1日（金）	引き渡し訓練	5月 17日（日）	黒川ふれあい歌舞伎
5月 20日（水）	白川中運動会	5月 22日（金）	黒川発見ウオーク（黒川小）
5月 23日（土）	登山（佐見小）	5月 24日（日）	黒川中体育祭